

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 422

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「相手への思いやり」

くす星翔中学校 3年

鶴留 彰

テレビのニュースで、インターネットで起こった事件を目にしました。その事件は、男の子がインターネット上に書き込みをし、それを視た大人が殺人予告を送り、男の子が精神的ダメージを受けたというものでした。

このニュースを見たとき、「自分も似たようなことがあったな」と思いました。

僕は、よくネット上で動画を見ます。なかには動画にコメントができるものもあり、そういう動画にはコメントをしていました。ほめるコメントもあれば、時には内容をけなすコメントもしていました。

そこで、ちょっとした事件が起こりました。僕が「おもしろい」とコメントしたものに

「これ面白いと思ってるの？」

「脳みそ筋肉なのウケる〜」

など悪口が書き込まれていました。

最初は、「ははははは…」と笑っていました。しかし、いやな書き込みが増えていき、だんだん笑いは「イライラ」した感情に変わっていききました。

インターネット上に載せた情報は、日本全国、いや世界の人のつながっています。そう考えると、情報を発信する自分はたった一人ですが、それを受け取る人は世界中にいるのです。僕のコメントに悪口を書き込む人、僕にとつての「敵」は世界中にいるかもしれない。そのことに気づいて、僕はぞつとしました。イライラは恐怖に変わりました。

「ヤバイ、ヤバイ。これ、変なことにならないよなあ。」

心配で心配で、毎日独り言を言っていたくらいです。

幸い、僕のコメントに対する悪口は、そんなに拡散せずに終わり、

正直ほつとしました。

平成二十九年の調査で、インターネット被害に遭った子ども的人数は、これまでで一番多い一八一三人だったそうです。

最近では、小さいころからスマホやタブレットを持つようになったからだと思います。インターネットは便利なのですが、便利になるにつれて危険なことも増えていきます。

インターネットを使わない生活は今ではもう考えられません。危険があることを知った上で、どうインターネットを使っていけばいいのか、自分の体験したことをふまえて考えてみました。

まず、不用意なコメントはしないことが一つだと思えます。どうしても伝えたいことではなく、思いついたことを書いただけなのでコメントしなければトラブルのきっかけにはなりません。二つめは、熱くならず冷静になることです。

自分のコメントに対するコメントにいちいち反応していると、目の前のことだけに気がいつて、先のこと考えられず、後になって後悔することになります。相手に言い返すことが必要なときもありますが、相手

をおおることもつながります。だから、冷静になることが大切だと思います。

インターネットにはたくさんの意見や情報があつて、とても面白いと思います。しかし、インターネットを使っている人であれば、僕が経験したようなことやニュースになった事件のようなことは「いつ起こってもおかしくない」ということを考えておくことが大切です。

インターネットの向こうにいる見えない相手のことを考え、お互い楽しんで使っていきたいと思います。(学年などは、投稿時のものです。)

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめてみましょう。住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

